

会 議 記 録

会議名称	第4回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和7年12月15日（月）午前10時05分～午後0時12分
場 所	中棟4階 第2委員会室
出席者	委員 大橋、奥山、加藤、齊藤、宮田、天野、荻上、佐藤、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、管理係長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター所長、 社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 社会教育センター社会教育主事
配付資料	<p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第3回社会教育委員の会議記録（案） 2 社会教育センター「地域活動のリアル」チラシ 3 社会教育センター「いっぽ！みっけ Vol. 1」 4 社会教育センター「すぎなみ発！ラウンドテーブルミーティングで学び合おう」 <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育センター「Science Edge 最先端現場で活躍するプログラミング」チラシ 2 郷土博物館分館 区民参加型展示「玉川上水とすぎなみ 昔と今とこれからと」チラシ 3 東京都教育庁「とうきょうの地域教育～豊かな出会いと学びを～No. 155」 <p>・東京学芸大学×北海道教育大学「未完成のワクワクが集い、磨き、作る一日 FES」チラシ</p>
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育士ミートアップについて 2 社会教育センター発行の冊子について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 愛称について 2 検討課題について 検討課題（案） 違和感やひっかかりに向き合い“自分になる”ための学び ～子ども・若者を中心に <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今後の予定 令和8年2月6日（金）午前10時00分～

(意見要旨)

- 議長 はじめに、生涯学習担当部長からご挨拶をお願いいたします。
- 生涯学習担当部長 よく杉並区民はとても意識が高いと言われ、私自身もそう思っています。社会教育分野に就くのは初めてですが、毎回深い議論で、心強くありがたく思っています。今日もよろしくをお願いいたします。
- 議長 資料確認と報告事項をお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） （資料確認）
- 議長 報告事項をお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 社会教育センター主催のワークショップ「地域活動のリアル」の中で交流タイムを利用し「社会教育士ミートアップ」を行いました。社会教育士の称号を持っている方や受講中の学生が参加し、少人数ながら社会教育士のネットワークづくりに向けた小さな一歩を踏み出せたと思います。
- 社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事） 社会教育センター広報を強化するため『いっぽみっけ！』を発刊しました。また、先の「地域活動のリアル」を通じて、杉並版ワークショップの手引きともなる冊子を作成しました。やりとりを豊かにすることにつながればという期待があります。
- 議長 次に協議事項です。まず愛称についてですが、ワークショップの名人、A委員にお願いしてアイデアを出し合ったらどうでしょうか。
- A委員 ノープランで来ていますが…。ホワイトボードを貸してもらっていいですか？前提として「杉並区社会教育委員の会議」が正式名称です。頭で言葉ばかり考えるより表し方を見た方がいいです。そこを意識して話すとキーワードが出やすくなります。
- B委員 そのものの意図がよく分からなくて…。
- 議長 よく生涯学習センターのような施設には愛称をつけますが、会議体となると違うような気がします。社会教育は民の活動が99%なので、社会教育委員の会議で出した報告や提言も行政に出すものだけでなく興味を持ってほしいと思います。社会教育委員は区民が考えていることを行政に、行政が考えていることを区民に届ける役割があるので、区民への関心を呼び起こすようなものとして、親しみやすさを感じられるといいと思います。
- B委員 なるほど。
- A委員 そういう意味では報告書や提言のタイトルと思うといいでしょうか。
- 生涯学習担当部長 非常にいい議論をされているわけです。もっと広がっていく方法はないかと思っていました。議長が整理してくださったとおりなので、A委員が言われたように発信するときに使うことで、手に取ってみようと思ってもらえればいいと思います。
- C委員 前回欠席したのですが、例えば先程の「いっぽみっけ！」のようなものを出せるなら、文字ばかりの報告書よりはいいかもしれない。もう少しビジュアルで見せるように、三つ折りの紹介パンフレットのように、この会議はこのようなことをやりましたというのが出てきてもいいと思います。

- 生涯学習推進課長 各回深いご議論をいただいておりますので、通信のような形で、区民の方に議論の途中経過も知っていただくというのも大事と思っております。
- A委員 一旦、運用可能な名称で動いていき、今期はこういう名前で発信してみましたという使い方で考える感じですかね。アイデアを出しても大丈夫そうな感じになりましたか？
- D委員 頭の整理ができて面白い議論になると思う部分と、互いに何を思いながら話すのかで違いが出るためモヤモヤするかもしれないと思う部分があります。土台の目線合わせをした方がいいのか悩みます。
- E委員 愛称は途中で変えることは難しいので、次期以降を考えると慎重にならざるを得ないですが、キャッチフレーズなら今期の取組から考えて掲げやすいと思います。
- F委員 私たちのマインドセットで今期限定だと思っていました。そもそも認知度が低いものを、さらにひねって認知度を上げられるのか…。我々が集まっているのは区と区民の間の中ドルウェアやハブのようなものなので、「区とあなたとのミドルウェア 杉並区社会教育委員の会議」とか。
- A委員 なるべく今日やりますか。単語でいいので書き出してみてください。

(アイデア出しの個人作業の後、発表共有)

※出されたキーワードは次のとおり (順不同)

より良いマナビを考える／未来のマナビを自由につくる／ワタシをつくる／ゆたかになる／あたし+マナビ=未来／みらい／ゆたかな／つなぐ／まナビ まんなかすぎなみ／一緒に学ぼう会／共生／共育／教場／対話／まち暮らしラボ／私だって学びたい 私らしく学びたい／杉並みんなの○○○／まち場での社会教育活動すすめる会／ミーティング／進めよう論議／新しい学びの創造で素敵な未来へ／身近な学びを素敵な学びに／未来の学びをつくる会／生きづらさ担当課／学びを変える会／区民がやってる／杉並とあなたの中に／ちょっと／どんよりをはればれにする／やわらかな発想で新しい学びをつくる／自由な学びを創造しよう／新しい学びの形／新しい学びの形をつくろう／学びと暮らしをつなぐすぎなみ社会教育委員の会議／うっかり

- 生涯学習担当部長 特別な人たちが特別なことをやっているのではなく、誰でもやれる身近なことをやっていることが伝わるといいです。
- G委員 杉並の区民が豊かになる、杉並区民の未来のため行政と区民をつなぐイメージが名称になるのが分かりやすくいいと思います。
- B委員 例えば「どんよりをはればれにする」とか「生きづらさ担当課」とか、読んだ人が救われる、もう一歩踏み出そう、もうちょっと継続してみようというところまで感じさせるネーミングがいいのかなと思いました。
- C委員 教育というより社会活動を進めるための会議ですというのがあってもいいかと思いました。
- A委員 この会議は、学びがあるとか未来がどうというアウトプットはあるけ

れども、何を持ち込んでいいのかインプットが分からないと思うのです。いきなり未来の話をされても自分がパッとそこに行けないのでイメージしづらい。インプットがないと身近に感じない気がしています。

- E委員　ちょっとネガティブな状況にある人を救うための取組をするのにすぐはまったキャッチが生まれて、全員が共感できるフレーズをつくることで変わっていくのかなと思いました。「学びと暮らしをつなぐ」ということは、趣旨としてとってもいいと思います。

- 議長　生活の中のいろいろな事柄に対する取組が社会教育なので「暮らし」がキーワードだと思います。困っていることや悩んでいることに取り組むことも、面白そうだからやってみようということも学びです。前向きに取り組むことが社会教育における学びなので、そういうことをイメージできたり応援したりすることができればと思います。

少し整理する時間が必要です。今日はこの辺りにさせていただいて、次に今期の検討課題に移ります。

これまでにいただいたご意見から、案として「違和感やひっかかりに向き合い“自分になる”ための学び～子ども・若者を中心に」としました。学校の勉強だけではなく、いろいろな意味で自分を成長させるための学びというのは、どうイメージされますか？事務局から少し補足をお願いします。

- 社会教育推進担当係長（社会教育主事）　この間、表現を変え、かたちになっていない学びの大切さ、生きづらさやモヤモヤを誰かと分かち合うことで気付きや支えを得られる社会教育活動の必要性等に言及されていました。また、子どもの可能性や大人の学び直しについても意見が出る中で、ちゃんと違和感や引っかかりに向き合わない自分自身のことが見えなくなってしまうとか、そこで問いかけをしてくれる人が必要だということが出ていました。今期は、そうした関係を紡いでいけるようなところを議論し、誰もが触れられる社会教育に触れられるまどめにしていけたらいいのではないかとということが共通するのではないかと思います。

子ども・若者という対象は、皆さんの関心が高かったことと、軸がある方が議論しやすいと思ったことから仮で置いています。

- C委員　保護者でも先生でもない斜めの存在が分からないといえば分からない。地域活動の中で教育や学びの面から考えていくことなのかなと思いました。

- D委員　生きづらさみたいなマイナスを想定したものとプラスを想定したものと両面あるときに、マイナスを想定するところが強くなると思いました。「“自分になる”」という言葉の持つ難しさをどうしていくか議論しながら考えたいと思います。子ども・若者を中心に、大人の学びもつながるのか膨らんでいくといいなと思いました。

- A委員　子どもたちの違和感は、正直大人側の責任だと思っています。子どもや若い人たちが「“自分になる”」というのは本人が「私」を主語に話せるようになるということだと思っています。足場があると「私」を主語に話せるようになって、人と関わるのがフワフワしなくなると思っています。常に若い人たちに「私」を主語に話していいと言ってあげる関わり方を考えていけたらいいと思っています。

- E委員 生活の中の引っかかりからジェンダーの問題など、いろいろなものを含んでしまうので、ピンポイントで考えられない分すごく難しいと思いました。自分になるというのも人生なので、難しいと思います。例えば、大人が学び、昔できていた人間関係みたいなもので、現代にできることが見つければ、やりがいがあるというのが感想です。
- 自己肯定感が低く、自分に自信がなくて認められないという若者が意外と多いです。自分になるとは、これが私だからここから始めれば良いとうことに気付くことなのかと、これを見て感じました。
- H委員 中学生と関わる中で、自分の思っていることを言えるとか、自己肯定感を持っているのはいいと思っています。自己肯定感を育むため、こういうテーマを話し合うのもいいと思います。
- G委員 子どもたちの違和感は大人の責任というのは、どういう視点でそうお考えなのでしょう？
- A委員 私は、やや関わりの多い人が良い関わり方をするのでしか、関わられた方は関わり方を学ぶことはできないとされていて、それは年齢に依らず、その人がその人でいやすいように質問をするとかコントロールしようとしないうちに気を付けていないと結構できないと思います。全員できるわけではないけれど、大人も学び合って、それは大人が頑張ろうと思います。
- G委員 ありがとうございます。本人の言葉を引き出せるかどうかは、大人の質問の仕方、会話のモチベーションで変わっていくということ、改めて反省しました。自己肯定感が低いとかなかなか自信を持って話せなくて、杵を取っ払って人と違っていいのに、ほかの人はどうなんだろうが先に来てしまう子が、多いと感じています。
- B委員 受けてきた教育が、みんな一緒や上から教えられたら言うことを聞くというのが正しいので、子どもに関わる側になったとき戸惑うわけです。
- 子どもの自己肯定感以前に、親自身の自己肯定感が低くて、お話を伺っていると、親に言われたとおりに、私、生きてきましたという方がすごく多いです。古い価値観と同調圧力に生きづらさを感じている大人も多くて、それを子どもたちにしたくないのに新しいやり方が分からないせめぎ合いのようなものを感じています。“自分になる”というのは、根底には自己肯定感があって、自分を主語に自分で判断して決断して、選び取っていくことであり、一生かけて、要らない価値観を捨てていく作業だと思っています。
- A委員 誰かの意見の中に正解があると思、それが正しいかどうかではなく、振る舞いの型としての正解を考えているのだと思います。一人の意見を聞いて従うのではなく、いろいろな人に意見を聞いたり自分の中で考えて決めていくように、振る舞いの正解をずらしていかないと動かない感じがします。あの人もこの人も正しいことを言っている、それでいいのだと。
- 議長 学校教育では異文化理解とは言わず、多文化共生と表現します。実際は異なるけれども「異」と言い切ることで溝ができるためです。異なるものが存在することを受容する、許す感覚がとても大事で、教育や学びでは、そこから一歩進み、その違いを楽しむ、意味付けることがとても大事です。言葉は少しネガティブかもしれないですが、違和感や引っかかりは、そのきっかけだと思

います。この人とここが違うのが楽しいとか、いいことを言っているとか、この考え方は自分とは違うとか、自分で意味付けていくプロセスが本当の意味で社会教育で、それを自分の中に蓄積していくことが「自分になる」ということだと思います。

ただ、そのための必要条件として、自己肯定感が低いとなかなかそうはいかない。だから、自己肯定感を高めつつ、価値観の違い、文化の違いを楽しむ感覚がすごく大事で、その環境を社会教育行政というのはどういうふうにつくれるのかと、話を聞いて思いました。

今日の会議は、この辺にさせていただいて、最後に、また課長からご挨拶を頂きたいと思います。

- 生涯学習推進課長 本質的なお話で大変刺激を受けました。区民への広がりや伝え方も大事だと改めて認識いたしました。次回は年明けになりますが、本年ありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。
- 議長 ありがとうございました。これで終わります。